

10月例会

未来ビジョン委員会は、4月例会以来となるリアル
の場で10月14日に例会を開催させていただきました。
久しぶりの集合形式での例会はメンバーと交流がで
き、また引き締まった雰囲気で大変嬉しい思いでし
た。

例会テーマを「楽しもう！地域活性化」とさせてい
ただき、コミュニティデザインであり、福山市内海
町を拠点に様々な活動をされている中尾先生にご講
演いただき、その後、当委員会が考える今の課題、そ
してこれからの課題について
ディスカッションさせてい
たいただきました。

中尾先生の活動は「人と
の関わり」から「課題の抽
出」、無理なく楽しく活動し
ていき、日常を変えていく取
り組みを始め、事例をもとに
我々青年会議所メンバーに
とつても今後の活動のヒント
となる部分が多く、積極的
に取り入れていきたいものでし
た。

私たちの地域だけでなく、
青年会議所においても「これ
じゃできない」「やっても無駄」といった閉塞
感が増してきており、コロナ禍によって拍車がか
かっていると感じております。

私たちの委員会は今年、この
ような状況でも閉塞感を打破し
たい、と活動を行ってまいりま
したが、中尾先生のお話やデイ
スカッションで話させていた
だいたことを意識いただき、自
分たち一人一人がまちな未来を
創っていくんだという気概を持
ち、今後の活動に繋げていつ
ただければと思います。

(記事：未来ビジョン委員会委員長
内海洋平)



卒業生スピーチ



溝口 佳矢

皆さん、お疲れ様です。
本日はこの様な機会
を設けていただきまし
て、誠にありがとうございます。
同期の卒業生
定者は先月にスピーチが
終わってしまい、少し寂
しさと戸惑いもありますが、後ろには大ベテラン
の方々が控えておりますので、トッパバッターを務
めさせていただきます。

卒業というところで、この様な場をいただきました
が、正直何を話そうかと困っているのが事実です。
というのもJCIに加入させていただいたものの、ほ
んと例会にも委員会にも参加できておりませ
んでしたので、特に去年や今年から会員になられ
ました方は「この人は誰なんだ？」と思われる方
もいらっしゃるかもしれません。ですので、異例か
とは思いますが卒業スピーチで簡単な自己紹介
を改めてさせていただきます。

私は尾道駅前で天ぶら屋「天咲」を経営してい
まして、お蔭様で開店して8年目を迎えるさせてい
ただいております。地元は広島市内なのですが、
天ぶら屋を開業するにあたり尾道の穴子や引つ
使いたいということで、広島市内から向島に引つ
越して来まして現在に至ります。この7年間の間
に天咲の2店舗目を横浜に作ったり、尼崎の方で
コンサルとしてお店の立ち上げに携わつていたり、
今年からはキッチンカーを走らせてみたりと濃厚
で楽しい時間を過ごしております。

普段はお店で朝から晩まで天ぶらを揚げてい
まして、お店に定休日を設けていないこともあ
り、なかなかJCIの方には参加できておりませ
んで、歴代の委員長をはじめ皆様には多大なご迷
惑をおかけしたことを思います。この場をお借り
まして、申し訳ございませんでした。

その中でも特に、入会初年度に森川委員長の元
でやらせていただきました時に、一緒に幹事となり
ました内海君には幹事の仕事を全部やっていた
きまして、本当に申し訳なかつたと思っております。
す。代わりに、パイパイをたくさん使いますので許
してください。

入会をしたきっかけをお話しますと、天咲を開
店しまして少し経った時にお店の看板という
か表の扉の上の看板シールを新調しようと思
い、その看板シールをお任せしたのが鉄道広告さん
で、その時に始めてお会いしたのが池田先輩でし
た。飲食店では狭いコミュニティの中でやって
います。アウトプットばかりでインプットする機
会も少なく、広島市内の方から越して来たばか

りて尾道にまだ知り合いが少ないことを相談さ
せていただきましたら「JCIというものがある」
と早速JCIを紹介していただきました。

正直恥ずかしながらその時までJCIの存在を
知らず軽い気持ちで紹介をお願いしたら、次
の週からお店の営業時間中に宮徳の沼田先輩が
徳永先輩(徳さん)を連れていらつしやいました。
ありがたいことにお店の単品メニューを端から端
まで頼むという飲食ではあまり見かけない大人
買いのようなやんちゃな食べ方を2人でしていた
いただきました。その時の徳さんが沼田さんに言われ
るがまま苦しうに食べている姿が印象的で、な
んなんだこの人たちは！というのが始まりです。
食べ終わられた後にJCIの説明を伺い、仮入会申
込書もすっかりいただきましたが、開店して二年
目ということもあり、正直今入会をするべきなの
かを悩んでいました。すると、宮徳さんのお休
みの毎週水曜日に徳さんを連れてこ来店いただく
という行事が恒例となりまして、3回目くらいで
すかね、お店に入る徳さんの顔が険しく目がつ
らだつたのを覚えております。そしてその日も例の
ごとくやんちゃな食べ方をさせていただき、徳さん
がなんとかやつたことと食べ終わって食後のコー
ヒーを飲んで落ちていたところでした。沼田先
輩の「まだ食べられるやろ、穴子一本揚げ追加でつ
いてオーターを聞いて、徳さんが涙目だったのを忘
れません。

私の嫁もお店を手伝ってくれているのですが、
その時に嫁が徳さんを見て「あの人大丈夫？そ
ろろ限界なんじゃない？」という一言があり、この
ままこのありがたい儀式が続くと徳さんがきつと
天ぶらを嫌いになるんじゃないかという不安もあ
り、嫁がタオルを投げた感じだて入会を決めまし
うところがありますが、晴れて今岡チルドレンに
なることになりました。

そして、私がJCIを辞めずに続けることができ
ましたのはひとえに今岡チルドレンと言われた
同期のお陰です。先日また天咲で今岡チルドレンの
同期会をさせていただきましたが、私もお客さん側
で参加させていただきました。本当に幸せな時間
を過ごさせていただきました。本当にいつも救わ
れました。ありがとうございます。

また、同期だけでなく会員皆様、私がかかなか
参加することができない中でもよく連絡をいた
だき、お店にも食べに来てくれて、参加する時も
暖かく迎えていただきました。

コロナ前は委員会でもお店をよく使っていた
き、相談などもしていたことが多く、活動に
参加できない最中でも皆さんがこれだからどんな想
いでどんな事業をされるのか、情報だけは入って
きていたように思われます。事業の前にはいつも
天咲で食べる！という方もいらして、大変光

栄でした。ありがとございます。

また、般参加の事業で飲食の出店が必要な時はたくさん呼んでいただき、そちらでほんの少しだけですが協力させていただけたのかなと思っています。大本委員長の時の事業「寺フエ」で、まさかの国宝の浄土寺さんにフライヤーを持って行って天ぷらを揚げさせていただいたこともありまして、池田委員長の時に尾道駅前の緑地帯で行った米フエで、お米にあう商品ということで風口「ストポーク」を井になるように実演販売を行って10時開店で11時半には用意していた150食全部売り切った身内からクレームをいただいたのは良い思い出です。これからも駅前緑地帯や尾道界隈で飲食を絡めた事業をすすめる時は呼んでください。キッチンカーも活動しておりますので、参加させていただきます。

お話ししました通り私自身がほとんど活動に参加しておりませんので「参加した方が良いでしょう」となどと偉そうなことは言えませんが、私から言えることはただ一つです。

お仕事や家庭の事情でやむを得ず例会や委員会、事業などに参加できないこともあるかと思いますが、そして参加できない日が続くと更に気持ち的に参加しづらくなって来ると思います。私もずっとそんな気持ちを抱えていました。でも、実際に久々に参加する時間ができ、例会などに参加してみると皆さん暖かく迎えていただけたかったです。私にはそれが嬉しくもあり、とてもありがたかったです。

参加できるペースは人それぞれだと思います。その中で参加できるものは参加して自分自身の向上にしたいです。学んだことを自社に持ち帰って自社のレベルアップに繋げていただきたいと思いますし、尾道の街の発展のために皆様これからも協力していただきたいと思っています。

「参加率を向上させるためにどうしたら?」「新入会員を増やすためにどうしたら?」という話をよく相談されます。その時に私は毎回同じ様に回答させていただきます。「参加したいと思わせるような内容にすること、そこに自分の想いを乗せること」と。飲食店や他の業種も同じだと思うのですが、誰に何を届けるのか、が重要だと思っています。私も食を通じて、尾道の発展に向けて全力で挑んでいます。

コロナで職を失った人や売り先のない野菜を作り続けてモチベーションの下がっている農家さんなどを巻き込んで今年3月ヨリの下着チンカー事業を始めました。そこに現在鉄道広告さんなど色々な企業を巻き込んでおり、尾道全体が元気になるような事業にしていきたいと思っています。

引き続き一緒に手を取り合って尾道を笑顔にできるように願いを込めまして、卒業スピーチさせていただきます。

私の後はプライベートで幸せいっぱい行政さんのスピーチとなりますので、その幸せを皆さんに分けていただきたいと思っています。ではまさくにバトンタッチさせていただきます。本日はどうも「清聴ありがとござい



政成 啓行

皆様こんにちは。政成です。まだまだ続くかと思っていたJCLライフももうあと2か月を切ってしまいました。遂に卒業予定者としてお話をさせて頂く時がやってきました。思うところは多々ありますが、全部話していたらありませんので、12年間のJCLライフを振り返りながら皆さんにお伝えしたいことを皆さんと共有出来たら幸いです。

まず、JCLに入会した経緯ですが、2008年春に大阪での会社勤めを辞め、尾道に帰ってまいりました。その年と翌年は仕事を覚えるほうが最優先で、何かしらの会に所属しようとは全く考えていませんでした。

2010年、うちの父親がそろそろJCLに入らせようと考え、当時同期だった石森君のお父さんと組んで、2人同時に入会させようとしたのが発端です。

当時、JCLといえば女子中学生の略「くらしい」知識しかなかった私は当然興味もわかず、何ヶ月かスルーし続けていました。今思うと食わず嫌いなところですね。ある日、友人と新聞で飲んでいるとあるOBとたまたま席が隣り合わせになりました。そして、「お前、JCL入れ」。

翌日だったか、会社にタークスーツを着た麻生先輩と幡中先輩(当時の姓で呼ばせていただきます)が来られ、仮入会申込書を出されました。父親から「書くまで応接室から出てくるな」と言われ、とりあえず書きました。それが12年間のJCLライフの始まりでした。

そして仮入会員とかいう立場になり、仮入会研修や諸事業に参加させて頂きました。研修では夏なのに皆ジャケットを着、JCLイクリード・ミッション・綱領とかいう宗教か?みたいな何かを唱える様子は異様としかと思いませんでした。そのあとの懇親会が楽しすぎてそのままスズルと本入会に至った覚えがあります。

最初の委員会配属から2年くらいは、JCLって何?委員会って何?みたいな感じでしたが、事務局の鍵の取り方、アターの勘定の仕方から何もかもを学んだ2年間のおのみの事業、2012安本委員長が夜も寝ずに作られたかわいいうい尾道は特に印象に残っています。幹事とか2年目だかのペーに重要な役割を与えて頂き、ありがとございました。

2013年は、武田大俊ブロック委員長の下、ブロック委員会幹事として出向しました。2人とも理事をやったこともなく、尾道から出向して頂きました先輩方や、ブロック事務局、副会長の皆様いろいろなことを教わり、試行錯誤の果てに役割を果たすことができたかと思えます。大俊さんとは諸会議のあと、尾道に帰ってくるのが何年後だろうと新聞に飲みに行きました。お疲れの中、お世話になりました。大俊さんへ、お勘定の時、伝票を見ないでお金を出すの(しかも全額)は心苦しいので、今度は割り勘にしましょう。そしてカラオケ1曲歌ったら、その都度ウォッカのショット1気飲みをやるのはもうやめましょう。

やめましょう。

LOMでは、ミノちゃん率いる拡大委員会でお世話になりました。西本先輩(福田隆)先輩など、楽しい先輩の方に囲まれて、JCLの楽しさをこの委員会で改めて感じることができました。シンガポールバンクへの委員会旅行は、多くの人が既に語ったので端折りますが、夜のゴーバーから私の悪行を委員会メンバー他にバラした川崎耕平君はまだしばらく恨みます(笑)

2014年、初めての理事になりましたが、この年は途中で委員長をリタイアし関係したすべての人に「迷惑」と心配をさせてしまい、誠に申し訳ありませんでした。特に村上弘、先輩、麻生先輩はじめとする委員会メンバー、小腸の一部に血が通わなくなり、壊血性腸炎と診断され、1小腸の一部が切除されました。幸い腸は腐ってはいませんでした。20年くらい切った手術と全治半年といわれ委員長を途中で投げ出したこともあり、「ああ、俺のJCLライフ、終わっ

たな...」とか考えた毎日でした。お見舞いに来てくれた皆様には厚く御礼申し上げます。小林輝久先輩からは花を頂き、杉野原先輩には入院暮らしでジョン・レノン状態になった私の散髪をして頂きました。そして、ゴラを見せびらかしてくれた片岡先輩(川原)浩太先輩、ビールを持ち込んだ大西君、エロ本を差し入れてくれた(高橋)建太君には重ねて御礼申し上げます。

あの年は申し訳なく、生きた気持ちが全くありませんでした。その年の11月くらいに、その時の委員会メンバーに呼び出され、皆が私のことを心配していた旨を、これでもかと言われなかったらたぶんその年で退会していたと思います。

2015年、同期の井上委員長率いる総務広報委員会では、1月からの参加となりましたが温かく迎えて頂きありがとございました。例会でホリエモンを呼んでの公開例会で、まだまだ退会を考えるのは早い、と思うようになりました。

その年の12月、当時の安本専務理事予定者より日本JCLに向かないか?というお誘いがありました。加度副議長に付く小幹事(LOMの幹事みたいな役割)のはずだったんですが、当時の会議体議長が、ほかに人がいないからなのか、書類不備なのか曖昧ですが、なぜか会計幹事(LOM)ブロックの財政局長みたいな役割になることになりました。といってもお誘いがありました。加度副議長に付く小幹事(LOMの幹事みたいな役割)では来れなかったのですが、結局は加度副議長の小幹事の役割も果たした覚えがあります。LOMの理事も満足にできなかったのに、本会の幹事とか、務まるのか心配でしたが、周りのスタッフのおかげが、あつ、何とかなりました。

宮古島ばかりではなく、毎月1回行けばいいと言われる東京も毎週のように行き、毎月行く全国各地の委員会、現地調査などで関東(甲)から北陸(関西)まで走り回った年でした。今思うと、2014年に全うできなかった委員長をもう一度全うしたかったという執念が、日本出向の原動力だったのではないかと思います。

2017年、もう一度委員長をさせてもらうチャンスも頂きました。池田副理事長、中司副委員長をはじめとする総務広報委員会の委員長に配属されました。この年は病み上がりも忘れて毎日のように2気飲みしていました。榎野さん、巻幡さん、川口君、島田君、平岡君といったお酒が大好きなメンバーに囲まれ、人間関係で悩みつづき次第に打ち解けていき、秋の委員会旅行で大盛り上がりでした。最高に楽しい委員会でした。巻幡さん、流石に朝6時まででもう飲みませんがまた皆で飲みに行きましょう!

2018年以降は合同委員会資料に記載の通りですが、今までが教えてもらった立場だったのが、今度は教える立場になったのがこれまでとの違いだと思います。財政局長・理事明けのフロワー・副理事長と、今までの経験を活かして何をすべきかが問われた残りのJCLライフでした。財政局長の時は、お金の面だけではなく、委員長のお悩み相談(島田)元太事務局長とともにやったり、当時事務局員だった林さんが退職されることと、誰が読んでもわかる事務局の運営マニュアルを作ったりしました。そのマニュアルはまだ、事務局にありますが、事務局長になれる方は読んでも損はないです。というか、ぜひ読んでください。

理事明けのフロワーでは、当時卒業予定者だった池田先輩をどうやって気持ちよく追い出すかを考えていました。委員会メンバーがどこかで一度は集まれるよう、3回委員会は企画を企図した記憶があります。当時の委員長は今治のキャバクラが気に入った様子で次の日、ひどい二日酔いで釣りに遅刻してくれましたね(笑)。店名が怪獣みたいと思つたら、キャストもまあまあ怪獣が多かったです。そして、鍋島先輩と3人で、全国大会のついでに黒部ダムに行ったら、池田先輩に非常に喜んで頂いたこと。今年の仕事は終わって感じました。

そして副理事長だった昨年は、個性の強い小川委員長(高橋)洋樹委員長の想いをどう正副の場で伝え実施に繋げるかに腐心した年でした。両委員会とも、端から見ても心強いメンバーに恵まれ、事業に強い想いをもつたのが委員長からの電話やLINEで如実に感じる事ができました。コロナ禍の渦中で事業もままなりませんでしたが、それでもやらせてあげたいと思い、現実の狭間で苦しんだ年でもあったように思います。何度も懇親会にお誘い頂きましたが、もう少し品位を持った飲み方をお願いしたいところ(笑)

今年、LOMの委員会の本事業が今週末、ブロック財政局長としてのお役目は来月20日までありますので、島田委員長をはじめとする地域教育実践委員会と、加度プロ長・小林暢文運専をはじめとする今年度ブロックの皆様には、忘年会の場をお借りするなどして、後日お礼を伝えさせていただきます。

最後に、自分の体験から皆さんにお伝えしたいことを少しお話させて頂きます。

一つは、仲のいいLOMを続けていくって欲しいこと。他所と比べても尾道JCLは仲のいい団体だと思います。馴れ合いでタラタラ事業をやるのではなく、比較的遠慮なく

ら、目をかけていたそのメンバーが結婚や家業を継ぐなどで仕方がない事ですが、同じような時期に退職してしまいました。これは私的には結構シゴクで、肝心な所で頼れる、頼りにされる人間じゃないんだと相当凹みました。また、2016年は私はJICでいう返り咲きの時、一部の人からは副理事長じゃない?とか言われており、まあ副理事長の大役ではないし何らかの理事になるもんだと思つていました。ところが、理事選に落ちました。と。ここで、もうやっぱり自分の魅力のなさを痛感してました。流石にこれじゃいけないと思ひ、自分を鍛えんといけんと思つていたのですが、どっかセミナーに参加しようか?とか色々考えました。そして、自分が一番成長したな、一番人の付き合ひ方を学んだ時はJICだ。と思つたんです。だから、V.Cの話が来た時は、全く何か分かつたなかつたので即決(受諾)しました。

先程も言ったように、時間とお金はたくさん使いましたが、勉強にはなつた出向でした。でも、一番勉強になつたと思つたのは、何月かは覚えていないですが、私が確か日本の正副会長理事を何かの会議で参加できなかった合同委員会での出向者報告の時、委員で出向していた青山先輩が言つてくれた事です。当時というか今もその気がありますが、尾道JICで結構鎮国体質が強いLOMだと思ひます。だから出向している人に対してどこか無関心というか、雑にいうと「出向する」JICバカでグサイ「みたいな雰囲気は少しはあると思ひます。そんな中で、青山先輩は「あいつがどれだけ頑張つたのか皆んなちゃんと見てやれ!」宮古島行って済ませるな」みたいな事を言つてくれたと聞きました。これは嬉しかったですね。そこから本当にLOMのバックアップも恐縮するぐらいしていただきました。尾道で全体会議をする時の設営は当時の本多直前理事長自らが旗を振つてくれてLOM総動員で手作りの本当に素晴らしい懇親会までの設営をしていただきました。こういう事をたくさんして頂きましたので、心が折れる事なく、日本の苦行を耐えられたのだと思ひます。決して傍観者ではなく頑張つて人間にしっかりとした気遣いや、周りの人の行動を変えたいとしようとした言葉を言える人つて本当にカッコいいなと思ひました。

このV.Cに出向をしたことが、私のJICライフの大きな転機だったんじゃないかなと思ひますが、翌年から60周年の発行委員長や副理事長、監事と様々な役職を経験させて頂き、昨年理事長にまで選んでいただきました。理事長が内定するとあれやこれや色々考えるのですが、考えれば考えるほど私が64代理事長なのですが、ここまで続いてきた歴史の重みや先輩方への感謝、尾道青年会議所の看板など、理事長の重責をすくく感じられるようになり、歴史とか感謝とか看板とか、ここを大切にせんといけんなと思ひようになりました。皆さんも「存知の通り、コロナで活動が出来ない状況が続いてしまいましたが、まあこれは悩みます。活動を中止する事自体は難しくはなかつたんです。やれば楽だったと思ひます。でも、JICで一番成長するであろう、そしてJICに所属している中で1回しか経験出来ない委員長の機会を「コロナだか

ら」の言で済ませては絶対にダメだとすくく思つていました。結局私のリーダーシップが足りず、活動はなかなか上手いかなかつた所は多々ありましたが、高山さんの花火を始め各委員長の頑張りのおかげで、まちはそれなりのインパクトを与える事ができたと思ひます。そんな私が率いた2020年度の最後の事業である卒業例会。ここで大きな失敗をしてしまいました。この話は本当に大切な話だと思ひますので、ここはちよと真剣に話を聞いてください。

当時なかなか活動が出来なかつた時ですが、大好きな先輩方の卒業はちゃんとした形で開催したかつたんです。ここで言うちゃんとした開催つてのが、OBの方々と共に現地で送辞答辞をする事です。当然ながらコロナの状況も良くもなかつたし、近隣LOMでコロナ感染者も出てくるし、クラスターまで出ています。最悪な状況下でしたが、正副担当委員会の頑張り、何とか開催することにこぎつけました。ここで私、完全に目的というか大事にしないといけな事を見過してしまいました。開催できた事が嬉しく嬉しく嬉しくて。その日、卒業式の後事務局メンバーと共に打ち上げてました。ところが次の日の朝、建太から死にけるな声で「昨日の卒業式、OBの方々が物凄く腹を立ててる」と電話がありました。私は最初、建太のドッキリかなと思つていたのですが、内容を聞いて本当に恥ずかしいし、申し訳ない気持ち、そして正論の意見にただただ反省です。

こ指摘いただいた内容を要約しますと、「史上最低最悪の卒業式だった。こんな時期にOBを呼んだのに、安保先輩や高橋先輩が来られても現役は誰も挨拶に行かない。送辞答辞も自分らしく分かんない内容で卒業生を小馬鹿にした内容で笑いを取るだけ。卒業式にも関わらず、花のつも飾り付けがない。小学生でも卒業式と言つたらピリッと肅々と厳肅にやるのに、あなたは何な?そしてそれを誰も指摘しない、ましてや理事長が率先して三三七拍子して緒にふざけとる始末。今のJICはどうなつたんだ。楽しけりや何やつてもいいんか」と言つた内容です。100%私が悪いです。でも、これだけの事をしたら、普通はもう相手にしないです。誰だつて怒るのは嫌です。面倒くさいし、ましてや自分が面倒臭い先輩と思われれば、面倒くさいか?とか色々あるから、腹は立つけど無視するのが普通じゃないですかね?でも、それをその先輩は言つてくれたんです。本当に感謝しかないです。だつて、気づいてなかつたんです。これだけ後輩に心を掛けてくれてる事、多大な労力と時間をかけて後輩を指導してくれてる優しいか愛。この方も本当にカッコいい人だなと思ひました。だから、もうすぐある卒業例会。私と同じ失敗をしないようにして下さい。本当に期待してまいります。

そして今年、ラストイヤーで私はJICの余生をのんびり過ごす予定でしたが、まさかのブロック会長です。次年度ブロック会長は大体その年の理事長から選出されるのが一般的です。だから候補者には一応私も入つていました。やる気は0です。尾道の歴代ブロック会長を見てても会社も人間的にもすごい人ばかり。まあ私には無理無理。としか

思つてなかつたです。でもですね。当時は理事長です。尾道青年会議所の歴史と看板を預かつてるわけです。私が言われるのは向に構いませんが、先輩や尾道青年会議所が言われるのは嫌でした。それを次代に継ぐのも違うなと思ひ、ここで逃げたら男じゃない。せめて、戦つて死のうと玉砕覚悟でブロック会長を受けました。

ブロックになるのもうとLOMとのやり方というか雰囲気の違い。私の主観です。ちよとちよと違うかも。でも、JICでこうあるべきだつてのが割と強い。まあ、かいかい組織になるし、法人格も公益社団法人でもあるし、一定のルールを遵守することはすくく大事だと思ひます。でも、そうした背景があるから、規模はLOMではない出来ないうら大いですが、何かワクワクする所が足りない事業が出来易いんです。その点尾道はルール上、グレーな所でももつといのを作ろうと柔軟な発想があるから面白い事業を作れるし、グレーだからこそ、それを実現させるために頑張るし、理事会とかでグレーなところをボロカスに言つたけど承認した以上は何が何でも協力するつていう粋な人が出てくるんだと思ひます。そして、それを現出出来る能力と組織としての規模もあつたから、尾道つて他のLOMからも目置かれるんだと思ひます。それが尾道JICブランドなんだと思ひます。ただ、気を付けなかつたら、俺ら尾道なんだぜ!つてブランドを振りかざすわりに、ルールはグレーにやればい、でもそのグレーの部分を実現させる努力はしない、反対も意見も参加もしない。こうならないようにして下さい。

出向には出向の良さがありますし、LOMにはLOMの良さがあります。そもそも比較する対象ではないと思ひます。野球選手がすごいサッカー選手がすごいか?どつちがすごいかを比較するようなものも考え。だから「プロクなんか」つていう視野というか考え方で終わらないようにしてほしいと思ひます。もし、ブロックに興味がある方は、今年と来年はそれなりに発言力はあるので言つてくれたらねじ込みます。

そろそろ時間なので、最後に、JICに入つて、私はいっぱい怒られっぱい楽しんで、いっぱい成長させてもらいました。多くの素晴らしい先輩や後輩に出会えた事で、自分の現状に満足する事なく、「もともと成長しない」とつて本心で思えるようになったと思ひます。そういう事に多く気づかしてもらえた事は本当に幸せだなと思ひます。JICは決して経営論や財務テクなど一般的な経営学を学ぶための団体ではありません。同じ経営者として、カッコいい人間でありたいと背伸びしながら頑張つて、人ととの本当の関わり方を体で学べる団体だと思ひます。17年間皆さんに大変お世話になった団体ですから、ずっとカッコイイ団体であり続けてほしいと思ひます。

以上で、私の卒業生スピーチを終わります。ご清聴ありがとうございました。17年間、本当にありがとうございました。



皆さんお疲れ様です。
一級建築士のコニCです。たくさんの仕事の依頼ありがとうございます。最近、ちよと私の家を見てくれないか?と住宅を見る事が増えました。大手の住宅メーカー、中小工務店を問わず建築工事は、一人一人の職人に負うところが大きいといえます。工業化やシステム化によって部材の精度は、かなり高くなっているものの、最終的には現場で職人がどう仕上げていくかがポイントなのです。

また、仕事全体の工程と内容をチェックするのが会社工事部の責任者です。そして、職人たちの力量を引き出し、現場を實際進めていくのが現場監督です。しかし、近年はなかなか若い人が育ちにくい環境にあり、實際現場を進めているのは、職人の親方といったところもあります。こういった社会的背景を考えると、第三者的な立場の監理者を立てて仕事をする事で、ミスや不具合をなくすことができます。そんなお悩みの方は、小西設計事務所のコニCまでお問い合わせください。
愛する妻とコンビニお弁当を買に行きました。コンビニ店員「あなたためますか?」私たち夫婦「僕たちみたいにアツアツで!」つて言つて、チンしたあとに、コンビニ店員「すぐ冷めるのでお気をつけてください(ニコッ)」 (記事:美ノ上仁孝)